

セドリツク 私の名は、フォントルロローイですよ。(老侯の方へ行つて其側^{そば}に立つ。)

ミンナ 坊^{ぼく}ちゃんやんが、フロントルロローイですツての？いえ、然^さうぢやありません。ね、坊^{ぼく}ちゃん！貴方^{あなた}はもうフォントルロローイぢやありませんよ。本當^{ほんたう}のフォントルロローイは、今^{いま}ね、ロンドンの旅宿^{りやど}に泊^{とま}つてます。貴方^{あなた}は綺麗^{きれい}さ。彼^あの子^こは綺麗^{きれい}ぢやアありません。貴方^{あなた}の母^{かあさま}様^{さま}は美人^{びじん}でしよう。彼^あの子^この母^{かあさま}様^{さま}は美人^{びじん}ではあります。でも彼^あの子^こはフォントルロローイだから仕方^{しかた}が無い。そしてこのドリコンコート侯^{こう}は、紛^{まぎ}れも無い彼^あの子^このお祖父^{おぢいさま}様^{さま}！

セドリツク、老侯^{らうこう}の手^てを握^{にぎ}つて、

セドリツク ウーン、僕^{ぼく}のお祖父^{おぢいさま}様^{さま}です。ねエ。

侯爵^{こうしやく}、戸^とを指^さして、

侯爵^{こうしやく} これ出^でて行^ゆきなさい！乃^{おれ}公^{こう}の惣領^{そうりやう}の嫁^{よめ}であらうと無^なからうと、もう此^こ處^{ところ}に置^おいとく事^{こと}は成^ならん。其^{その}の證^{しょうもん}文^{ぶん}が役^{やく}に立^たつものなら、勝^{かつ}手^てに役^{やく}に立^たせて見^みい！乃^{おれ}公^{こう}は、貴^{きさま}様^{さま}や、貴^{きさま}様^{さま}の子^こどもなんぞには、今^{こんご}後^ご斷^{だん}じて會^あはんから。(言^いつて居^ゐるうちに鈴^{かね}を鳴^ならす。トーマス、登^{とう}場^{じやう}) 此^この人間^{にんげん}を外^{そと}へ出^だせ！

ミンナ ヘツ、此^この人間^{にんげん}とは何^{なん}だい、憚^{はばかり}ながら此^{この}人間^{にんげん}は、フォントルロローイ令^{れい}夫^ふ人^{じん}様^{さま}ですよ！(嘲^{ちやう}笑^{せう}しながら退^{たい}場^{じやう})

セドリツク 變^{へん}な人^{ひと}です。ねエ。

侯爵^{こうしやく} あんな奴^{やつ}はうつちやつとけ！(額^{ひたへ}を押^おえながら、苦^{くる}しげにテーパー

ルに取つく。

セドリツク 走りよつて、

セドリツク お祖父様僕によつかゝつた方がいゝでしやう。さア、しつかり凭つかゝりなさいな。

侯爵 セドリツクを見て、

侯爵 お前にかぢやア、少し凭つかゝらしてもらはう。セドリツクの肩へ手を置いて、うむ、分つとる分つとる、何うも彼奴等のやりさうな事ぢや。いや、最初から氣に喰はん奴ぢやつたが……うむ、彼奴のやりさうな事ぢや。

セドリツク 彼の女が言つたのは本當でしやうか、僕また普通の子になるんでしやうか？

侯爵 なに、彼奴は貴様にそんな事まで言つたか。

セドリツク お祖父様も、それで心配してらつしやるんでせう。

侯爵 うむ、心配して居る！ 全く心配して居るぢや！

セドリツク お祖父様！ お祖父様がそんなに心配なさると、僕も悲しくなりますよ。逡巡ひつゝ、あの、あの、母様の、あの、お家も、皆取り上げられてしまふのでしやうか？

侯爵 いや、そんな事は決して無い。

セドリツク 更にためらひつゝ、

セドリツク そして、あの、外の、外の、あの、あの、子どもが、僕の代りに來るんでしやうか？

侯爵 (強く) いゝやーいゝやー！

セドリツク、嬉しきうに、

セドリツク 然うぢや無いんですか？ 僕ね考へてたんですよ、僕、侯爵になれなくつても、やつぱりお祖父様の子だらう…と思つて…

侯爵 乃公の子？（音楽）然うぢやとも、乃公の生き居る間は、何時迄も乃公の子ぢや。あゝ、乃公は本當の生の子のやうに思ふぞ！セドリツク 然うですか？ ぢやア僕、ア侯爵になる事なんか何うでも可いんです。僕の一番好きな母様も、屹度然うだらうと思ひますよ。

侯爵 椅子に沈んで、手で頭を支へながら、

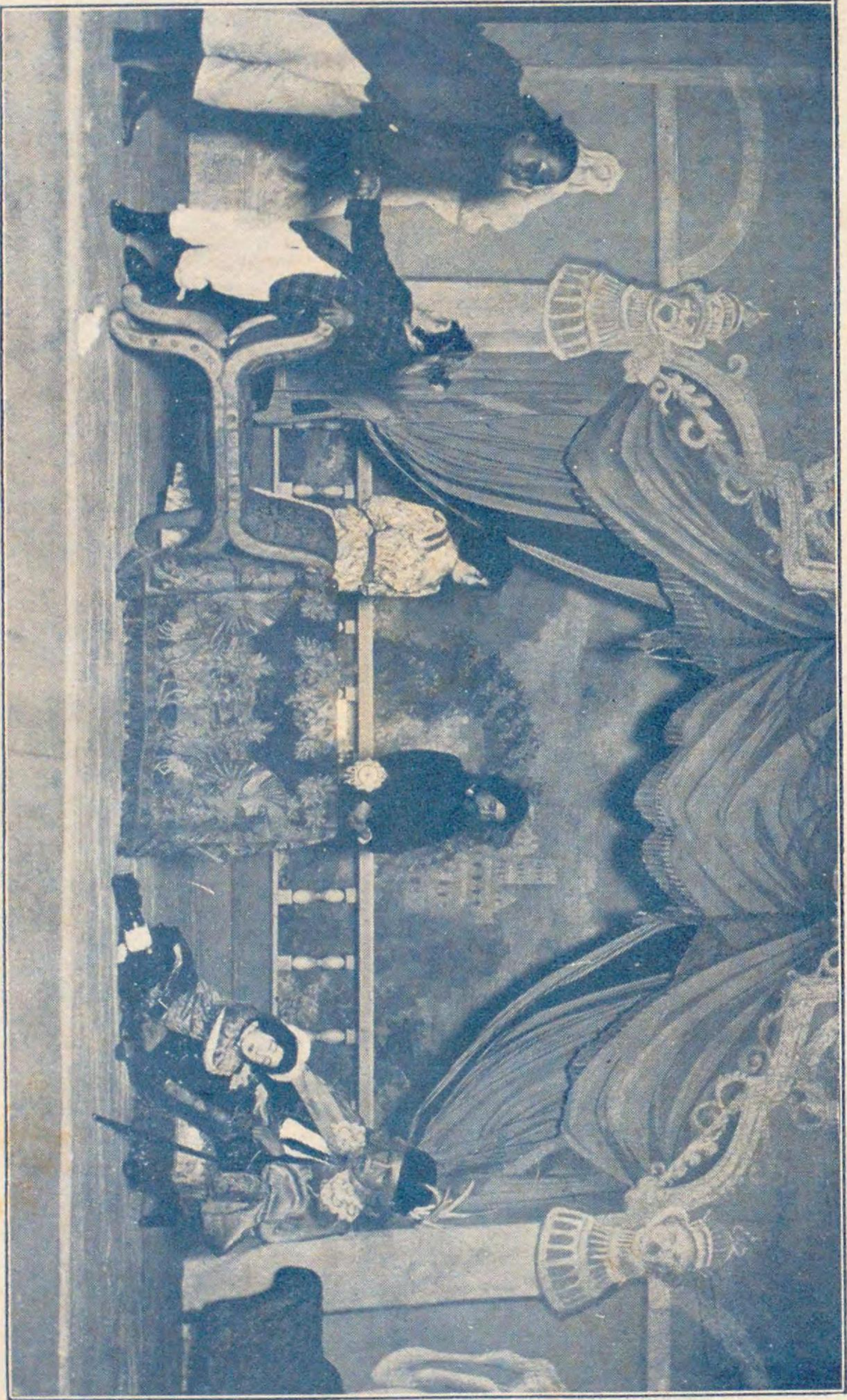
侯爵 うむ、然し、お前には解るまい。

セドリツク 僕能く解つてますとも。（一寸膝をかりめて老侯を見上げて）

ねエ、お祖父様。お祖父様には僕が居まじやう。僕にもお祖父様が居ます。そして、僕だちにやア、母様ツてものがあるんです。ねエ、何も悲しい事なんかありません。（躍り上がって）然うだ、母様は彼處に居有るんだつた！ 母様のお家直ぐ其處なんだ！ そして僕に見えるやうに、窓へ燈を出して、下さる時分だ。（窓の方へ走つて行つてカーテンを除けて見る）見える〜！ 能く見えまますよ。そらね、母様は彼處で言つて下さるの、セデイやおやすみよ。今夜も能く神様がお守り下さるよツて！ そして朝になると、セデイやお早う！ 今日も能く神様がお守り下さるよツて…！

幕。

幕の下



やぢのい好が合都が方のそく全(侯老)

下の幕

若殿の誕生日

場面 中の幕と同じ。

幕あきトーマスとシエームスそこらを取りかたづけ、塵を拂ひ居る處にて幕開く。

シエームス 御前は、能くまア、あんな温和しい母御と、可愛い彼の若様とを、引き割いておしまひなすつたものだなア。お可哀さうに。今度の騒動なんてエのも、全く其報復が来たのだよ。でも御前は、あの若様をお引取りに成つてから、まだ六週間にしかな

らないが、すつかりお氣に入つてしまつたんだねエ。それにま
た思ひ掛けない、別のフォントルロイ様が現れて來るてエ
んだから、御前は、もうまるで狂氣のやうになつて居有る。

トーマス 全くだ。

シエームス それによ、今度此處へ入り込まうといふ女は、コートロ
ツヂの方とは大違ひで、まるツきり比べものにも何もなつた
ものぢや無い。

トーマス 然うさ、ほんとだよ。

シエームス 彼の若様は、御前に取つては、もう掛替の無いお方なん
だ。僅六週間でもつて、すつかりお仲好しに成つてしまひなす
つた。尤も若様は、あのヒギンスや他の者にだつて、ほんとに善

い事をして下だすつた。實に感心な若様だ。此の界限で何んな
男でも女でも、うちの若様を稱めないものは無い。そして御前
のお心までが、段々變つて居らしたから妙だ。それで今日の
事なんぞも、今の若様が、フォントルロイ様に相違無いとい
ふ事を、皆にお見せに成る爲めに、急にお思ひつきになつたん
ださうだが、先刻も御前は、ハビシヤムさんに、彼れの爲めに借
地人を招んでやれ、彼れの借地人ぢや、彼れの借地人になるべ
きものぢやツて、頻りに仰有つて居らしたせ。

トーマス 然うだ、然うだ。(シエームスと、トーマス共に退場。セドリツクとウ

イルキンス登場)

セドリツク、汗を拭ひつゝ、

セドリツク 随分能く馳けたねエ。ウイルキンス！

ウイルキンス 然やうで御座いましたね。

セドリツク 僕真直に乗れて居たかい？

ウイルキンス ええええ、實にお立派で御座いました。

セドリツク ほんとかい？ 曲つてたら然う言つとくれよ。なか／＼

騎馬は難かしいもんだねエ。お前のやうにとても行かないよ。

ウイルキンス いえ、なか／＼お上手で御座いますよ。

セドリツク 最初は少しぐらついても、決して恐がつちやいけません

んよつて言つたね。僕何も恐かア無かつたんだよ。然う見えな

かつたかい？

ウイルキンス はい若様全くお立派で御座いましたよ。手前も随分

若様がたに、これまでお稽古を申した事があります。が、若様のやうにしつかりして居有る方は御座いません。

セドリツク 然うかい。難有う。僕嬉しいよ。皆お前が教へてくれるか

らだよ。僕も一生懸命勉強するよ。だけど、ウイルキンス、若しあの

他の子が來たら、お前其の子の方へ行つちまふだらう？

ウイルキンス あの鹿毛と手前とは、始終若様の物で御座います。他

のフロントルロイ様が來らしつたつて、決して其處へ参りま

せん。それに若様、貴方が本當のフロントルロイ様で居有るん

ぢやありませんか。

セドリツク 僕だつて其積りさ。そして僕お祖父様が好きなんだよ。

お前も然うだらう？

ウイルキンス、外交的に、

ウイルキンス　へ……………若様、まア若様にはお爲めになる殿様です
からねエ。

セドリツク　お祖父様は僕を可愛がつて下さるから、僕大すきさ。あんな立派な馬を下すつたんだもの、好い馬だねエ。彼の馬は！
ウイルキンス　はい、全くで御座います。

セドリツク、椅子に腰をおろして手紙を取出す、

セドリツク　御覽、ウイルキンス！此處に手紙が二つあるだらう。これはみんな、亞米利加から来たんだよ。紐育から（手紙を披いて）一つはデックからだし、一つはホップス爺やからだよ。ね、これがデックの手紙なんだ、ウイルキンス来て御覽、お前手紙讀めるんだ

らう？

ウイルキンス　（セドリツクの肩越しに見て、手をこすりつと）いや、何うも然ういふ風にして書いたのは……………

セドリツク　おや、讀め無いかい？ちやア、版で刷つたんなら讀めるの？

ウイルキンス　版で刷つたのも實は能く讀め無いんで……………いや、何うも然う學校へあがらなかつたものですか……………

セドリツク　然うかい、ちやお前其處において僕讀でやらう。（緩々手紙を讀む）「セドリツク様！おめへさんの手紙、慥に受取りました。ホップス旦那の處へもどきました。お前さんも、運が悪く成つて氣の毒だと思ひます。だがしつかり仕なければいけません

んよ。他人にいゝ加減なことをされてはいけませんよ。それから云つてあげる事がある。私の兄貴のベンが、カリフォルニヤでお金を儲けたのです。それで、行方が知れ無くなつた小僧を、何でも見つけ出したいと言ふのです。ウイルキンス知つてるか、小僧ツてのは子供の事だよ。

ウイルキンス はい、それは能く承知して居ります。

セドリツク 兄貴は、ミンナの方は何うでも可いが、小僧が連れて歸りたかつたのです。小僧は、ミンナに連れられて、英吉利へ行つたといふ事が知れました。それで、ベンは小僧をさがしにお前さんのお國へ行きます。私も一所に行きます。私はお前さんから受けた御恩は決して忘れませんよ。若し、何うも他に仕方が

無かつたら、かまふ事は無い、こつちへ来て、私と一所に居らつしやい。此頃は、大分繁昌して居ます。お前さんの世話をしても困りません。どんな奴が來たつて、チック、チップトンがついて居るから大丈夫です。今度はこれだけにして置きましょう。さよなら、チック。解つたかい。チックは僕を仲間にしてやらうツて言ふんだよ。

ウイルキンス 若様、それは何をして居る方ですか？

セドリツク 靴みがきさ。

ウイルキンス 靴みがきで御座いますツて？

セドリツク 然うさ。時に依るとチックは、日に四圓も儲ける事があるんだよ。

ウイルキンス あゝ、稼高がで御座いますね。

セドリツク そんなら母様と一所に居られるだらう。だけどもお祖父様は、僕を議員にしてやらうと思つて居有るかも知れ無い。

ウイルキンス

大變な違ひで御座いますねエ。

セドリツク、他の手紙を披いて、

セドリツク 此方はホップス爺やから來たんだ(緩々讀む)御手紙拜見致しました。容易ならぬ事と存じます。何でも狡猾な奴の仕組んだ事です。其の儘にしては置かれませぬ。私もきつと何とか致してあげます。ベン、チップトンが女房に連れて行かれて、行方不知に成つて居る息子を、わざ／＼お國へ捜しに參ります。私と同道して參らうと存じます。併し若し運が悪く、

華族の奴らに負けても決して心配なさいませぬ！ 貴君が御成人の上は、萬屋の株を半分御譲り申します。私は何時までも貴君の爺やで御座ります。さよなら。サイラス、ホップス。ね、二人とも僕を仲間にしてやらうツて言ふんだ。友達ツてもものは本當に好い者だねエ。そして、二人とも今に來るんだとさ。僕本當に嬉しいなア。お祖父様も屹度お喜びなさるよ。僕衣服を着かへる前に、お祖父様にお話しなければならぬ。ウイルキンス、何うも御苦勞！

ウイルキンス、帽子を取つて、

ウイルキンス 何う致しまして、さやうならば若様！

セドリツク、走つて出やうとして、一寸足をさめて、

セドリツク ねエ、ウイルキンス！お前と僕とあの鹿毛とは誰れが
フロントルロイになつたつて、仲よしのお友達だものねエ
！さよなら（ウイルキンスと握手する。セドリツク退場。）

ウイルキンス、帽子を地上に抛て、

ウイルキンス 何だつてかまふもんか。乃公もう彼の坊ちやん方だ。

（セドリツクの眞似をして）ほんとに立派な馬だねエ。何だい、ウイル
キンス？」ツて仰有る所ア何とも云はれない。何しろ品がちや
んと備つてる「僕フロントルロイで無いんだよ。」ツて仰有つ
たつて、なアに、そんな事があるもんか。若様は初つから、ちやん
と侯爵にお生れつきなすつたんだ！

老侯、ハビシヤム登場。ウイルキンス退く。

侯爵 用意はよいか。ハビシヤム！

ハビシヤム 大抵整ひまして御座ります。御前彼處に天幕が張つて
御座りましやう。休憩所と樂隊と飲食物を供給する場所に致
してあるので御座ります。夜になりますと、彼處で仕掛花火や、
打揚花火杯が御座りますので、領内の者は、誰れも彼れも皆是
非参りたいと申し出まして御座ります。

侯爵、彼方此方へ歩みを移して、

侯爵 よし、それで可い！領内の者は皆打ち興じて居ると言
ふか？

ハビシヤム 然やうで御座ります。領内の者は何れも喜び興じて居
ります。

侯爵 併し、ハビシヤム、借地人共は何うぢや？

ハビシヤム 借地人も皆喜んで居るとで御座ります斯やうな事は
これまでに曾つて無かつた事で、何の家へ参りまして、皆此
の噂ばかりで御座ります。

侯爵 うむ、彼らは何んな噂をして居る？

ハビシヤム 何れも皆若様と母御との、お慈悲深い噂で御座ります。

侯爵 何？ 彼れの母の話？

ハビシヤム エロル夫人は若様同様、お慈悲深くて居らせられます。

領内の者は誰一人、夫人を尊敬致さぬ者は御座りません。

侯爵 一寸苦笑して、

侯爵 うむ、母が然うで無ければ、彼れも然うはならん譯ぢやらう

のう。成るほど。

ハビシヤム 慥に然やうで御座ります。

侯爵 うむ、暴々しく併し何うも彼の件には困つたものぢや、(忽ち椅子に身を投げて)ハビシヤム、何うも乃公には生死に關する問題
のやうに思ふ。乃公は、彼の子を離すことはできません。どうしても
出来んぞ。(拳でテーブルを打つ)
ハビシヤム 私も何うか、若様の御身の上に及ばんやうに、穩便に濟
ましたいと存じて居ります。

侯爵 激しく、

侯爵 乃公は全體子供が嫌ひで、中にも自分の子どもとあつては、
殊に嫌ひであつたのぢやが、何う云ふものか、彼の子だけは可

愛くてならん。全く可愛いぢや。彼れも亦能く乃公に懐いて居る。

ハビシヤム すつかり御前に御懐きで居らせられます。

侯爵 彼の子は決して乃分を恐がらん！ 彼の子は乃公を信じて居る！ 彼の子は乃公を愛して居る！ (感動的に) 彼の子は乃公が彼の子を思ふ以上は、乃公を思うてくれて居る！ 彼の子は、立派なフロントルローイぢや。

ハビシヤム 立派なフロントルローイ様で御座ります！

侯爵 身を起し、激した様子で歩いて、

侯爵 咄！ 下素女！ 悪たれ女！ …… 彼が他日ドリンコート侯の母とも言はれる女か！ 断じて！ 乃公には何うしても然うは見

えん。ハビシヤム！ 彼れど、コートロッヂのと比較して見い！

ハビシヤム 仰の通り、とても比較になるべきものでは御座りませ

侯爵 然うぢや。其の通りぢや。彼れとはとても比較にはならん。それにも乃公は彼の方を退けねばならんのか。乃公の可愛い孫も、折角得たその位置から、又引落されるのぢやナ。心外千萬な！ これも何かの罰ぢやらう。… 併し、乃公は了簡ならん。乃公は、辛抱ができんのぢや。イヤ誰が何と云うても、あの孫は儘にフ

ハビシヤム 然し生憎あの結婚証明書なるものは全く真正のもので御座ります。

侯爵 何？結婚證明書！（また椅子に腰をおろして）イヤ彼奴は詐欺ちや。

ハビシヤム 成る程彼の女は、伶俐な女とも思はれませんが、唯だ大膽な者で御座ります。彼の女は、その企劃を達する爲に、充分鐵面皮に構へて居ります。いや、併し、詳細に調べましたら、何か馬脚を捉へ得る事も御座りませう。

侯爵 ウム、早くそれを捕へ度いものぢやな。ハビシヤム、何ぞ見込は無いか？

ハビシヤム 彼の女は、表面は何うにか胡魔化して居りますが、やゝもすると直ぐに地金を現します。彼様いふ女には、それが能くあります。事で、御前彼の女は肝腎の日附を忘れて居りました。

それを尋ねました時に、ひどく狼狽致したので御座ります。

侯爵 嬉しげに、

侯爵 然うか、それでは、一つ乃公の處へ連れて来てくれ！乃公が本性を見現してやらう。乃公は二度と彼んな奴に會はん心算ぢやつたが、併し然ういふ事なら連れて来て見い！

ハビシヤム 彼の女は、今日子どもを連れて參ると申して居りました。

侯爵 又狂はしく、

侯爵 來ると申すか、彼奴が？いや、彼様な奴は邸内へ入れんぞ。來るなら來て見い、直ぐに門外へ投り出してやる！（椅子へ身を洗めて）いや、いや、乃公はもう靜乎としては居られん……子供

！乃公は彼の子を此處に置いときたいぢや。ハビシヤム！(忽ち憤然として)いや、乃公は乃公の勝手にする！決して力は落さ
んぞ。(やゝ和いだ調子で)あゝ、何うしてまた乃公は、彼の子の事
こんな心配するやうになつたらう。(歡呼の聲、樂隊の響外に聞え
る。セドリツクの誕生日を祝せんが爲めに集まれる、借地人大勢通る。)

セドリツク 走りながら登壇。

セドリツク 窓の方へ走り寄つて、

セドリツク おゝ来た！皆僕の誕生日に来てくれたんだらう
か。杖は何處へ行つたらう？(隅の方へ走つて行つて杖を取り、鐵砲の
やうに之を擔いで)集まつた！跛のトムが來たら、これはお祖
父様がお前に下さつたんだつて、此杖を渡してやるんです。(再

び窓の方へ行つて) おや、デーム、チップルのお爺さんが、眞赤な外
套着て來た。(外へ聲をあげて)御機嫌好う！デーム、チップル？皆
上を見て居る！(老侯に)彼の人たちは、皆お祖父様を見やうと
思つてるんですよ。(老侯の傍へ行つて、其の手を取る。)彼の人たちは、
皆お祖父様のお目にかゝりたがつて居るんですよ。

侯爵、セドリツクと共に窓の方へ行つて、

侯爵 本當に然う思ふか？

セドリツク 何故？然うぢやありませんか！彼の人たちは、いつも
貴方にお目にかゝるのを皆喜んで居るでしやう。僕たちが一
所に馬車に乗つて通ると、嬉しさうに笑つちやア、帽子を取つ
てお辭儀するぢやありませんか。おや、ヒツギンスが子供をみ

んな連れて来て居ますよ。おとといヒッギンス子供たちはすつかり快くなつたのかい？（老侯にお祖父様御覽なさい。皆が此方をむいて、あんなに帽子を振つてますよ。僕も、今に、斯様にされたいなア。窓の下の他の一人にガッフワー、チル喜んどくれ。今日は僕の誕生日なんだ！リウマチの方は何うだい、少し可いの？ さア、跛のトムがやつて来た。可哀さうに、あんな棒をついてるばかりだ。おとといトム！杖をあげるからおいで！ トム！お祖父様がお前に杖をあげるツて！

侯爵、セドリツクの後姿を見ながら腰をふるして、

侯爵 彼れは何日でも彼様いふ事を言ふ。乃公が冷酷な人間ぢや。とは夢にも思つて居らん。彼れは全く乃公を信じきつとるの

ぢや。

ハビシヤム 母御が御前にお話になつた通りで御座ります。何か見つけたやうに窓の方を見つめて、おと御前母御が、エロル夫人が見えます。それお城の方へ来られます。

侯爵 うむ、来るか？ 乃公が招んだのぢや！

ハビシヤム はッ、御前がお招きになつたので御座りますか？

侯爵 然うぢや、乃公から招んでは可笑しいか？ そんな事もあるまい。乃公は乃公の息子の嫁を招のに、何の遠慮は要るまいと思ふ。乃公がすべての権利を放棄したと思ふから、妙に感じられるのぢやらうが。うむ、彼女は来てくれたか。うむ、乃公は彼女を招んだのぢや。

ハビシヤム其の顎をなせて。

ハビシヤム(傍白)あ、お招びになつたのか。

侯爵或は來たくなかつたかも知れんが、彼女は子どもが可愛い
のぢや。うむ、うむ、何といふ對照ぢやらう？彼の胸の悪くなる
下素女と！併し、何も彼女に對して別に乃公が感情を和げた
譯では無い、乃公は決して節を枉げん。

ハビシヤムでは御前？

侯爵いや、彼女を招んだのは、只乃公の計劃を説明しやうと思つ
た許りぢや、そして、彼女を彼れの子即ちフォントルロイと
一所に、今日借地人共に會はさうと思つたのぢや。然うさへし
てしまへば可いのぢや。

ハビシヤム(傍白)然うさへしてしまへば可いのぢや。

シエームス入り來る。

シエームス 御前エロル夫人が。

エロル 夫人登場。夫人老侯に挨拶し、またハビシヤムに挨拶する。

エロル夫人 御前様、お招き下さいましたのは、貴方で御座りました
か？

侯爵 然うぢや、口髯を引いて、エロル夫人を見ながら立つ。能く來てくれ
た(椅子を指す)。

エロル夫人 椅子へ腰をおろして、

エロル夫人 定めてセドリックが喜びますで御座いませう。
侯爵 椅子へ腰をおろして、

侯爵 うむ、彼れが喜べば乃公も嬉しい。

エロル夫人 私は私が貴方をお喜ばし申す事ができやうとは夢にも存じません事で御座りました。

侯爵 いや、然う言ふたものでもあるまい。口髯を引つぱりながら、エロル夫人を見て居る。忽ち彼の子は貴様に能く似て居るのう。

エロル夫人 はい、能く然う申されます。でも私には彼の子が父に能く似て居るやうに思はれますので、樂みに致して居るので御座います。

侯爵 然うぢや！然うぢや！乃公の息子にもよく似て居る。然し貴様は何ういふ譯で今日此處へ、貴様を招んだか知つて居るか？

エロル夫人 ハビシヤムさんから一寸伺ひましたが、何か御繼嗣の事について、事件が起りましたやうで……。

侯爵 それを能く言うて置かうと思ふのぢや。その事件を持ち込んだ奴に對しては、何處までも論争するつもりぢや。ひどい目に會はしてやるつもりぢや。法律のゆるす限り、彼の子の權利を保護するつもりぢや。就いてはその事を能く貴様にも言うて置きたいと思つて……。

エロル夫人 たとひ法律は容しましても、正義に缺けて居ります者ならば、決してお取り合ひ下さりませんやうに……。

侯爵 いや、法律上丈でも、彼の子の有になつてくれれば結構ぢやが、それさへ出來さうにも無いのぢや。彼の不埒千萬な奴めが。

エロル夫人でも、あの、其の御婦人に致しましても、私がセドリックを思ひますのど、同じ情愛をもつて居る事で御座りましやう。それで、其の御婦人が、お世嗣で有らせられた方の奥様で御座いますれば、其のお子は正しくフオントルロイ様で、手前は然やうで無い事は、解り切つた事で御座ります。

侯爵では、貴様は、子どもがドリコンコート侯にならん方が、むしろ可いと思つて居るのか？

エロル夫人 何う致しまして、ドリコンコート侯爵と申せば、大したもので御座ります。然し私は、子どもが何をさて置きまして、第一に父に倣ひまして、萬事に雄々しく、正義を守るやうに致したいので御座います。

侯爵少し皮肉に、

侯爵は、ア、祖父とは成るべく正反對に出いと言ふのぢやらう。エロル夫人 私はまだお祖父様と、よく御知己を願ひませぬので、何とも申し上げやうが御座りませぬ。でも、彼の子が御前様をお信じ申して居ります事は、能く存じて居ります。身を起して、前へ進んで老侯を見ながら、私は、セドリックが、能く御前様にお懐き申して居る事も存じて居ります。

侯爵 何うぢやらう。貴様を城へ迎へん譯を知らせても、矢張り乃公に懐いたらうか？

エロル夫人 それは、何とも申されませぬ。それ故私は、何うしても知らせたく無いと存じたので御座ります。

侯爵唐突に、

侯爵 うむ。だがそれを言はん程の女は珍しいな。たんと無いな。彼方此方を歩きはじめて。然うちや彼の子は乃公に懐いて居るし、乃公も亦彼の子が可愛いぢや。乃公はこれまで何んな者でも、好いたといふ事は無かつたが、彼の子だけは何うも可愛い初から、すつかり氣に入つてしまふたのぢや。乃公ももう年をとつて、生きて居るのが懶くなつて居つたが、彼の子が來てからと云ふものは、長生の仕甲斐があつたと思ふさ。いや、それも今は何うやら邪魔が入つてなア……。

ハビシヤム いや、恐らくは御前……。

侯爵腰をおろして、

侯爵 恐らくは、何とか穩便に濟まうといふのか。貴様は其の結婚證明書が、眞正ぢやないか。それを何うしやうと言ふのか。誰れかそれを何うかしてくれるのか？

セドリツク 急いで愉快さうに登場。

セドリツク チツクとホッブスぢいやが。母様、お祖父様、チツクとね、ホッブス、爺やとが來ましたよ！ 丁度僕の誕生日に來たんですね
エ。

侯爵 戸の方を向いて、眼鏡をあげて、

侯爵 お、お前の友達共が來たのか。チツク、ホッブス！
セドリツク お入りよ、チツク。お入りよ、ホッブス、爺や！ (戸を開いて、ホッブス、チツク登場) 皆此處に居るの。僕のお祖父様やなんか皆あ

と、嬉しいなア！（ホッブスを紹介して）僕のお祖父様のドリシ
ート侯爵僕の親友のホッブス爺や萬屋の主人ですよ。（老侯ホ
ッブスを見る。ホッブス辭儀をする。）それからこれは、親友のチック、
靴みがきをして居るんですよ。（老侯振り向いてチックを見、點頭。チ
ック前へ進み、辭儀してもこの席に復す。）母様も、ハビシヤムさんも、此處
に居るんだよ。（夫人さハビシヤムは各ホッブス、ザックと握手する。セド
リック老侯の傍へ行つて、嬉しうに老侯の腕を握る。）皆揃ひましたわ
ねエ、母様、何うだい、チック。ホッブス爺や、機嫌はいゝの？僕、本當
に嬉しいなア！

侯爵 侯爵チックとホッブスを眺めて、
實に、いや實に珍らしい事ぢや。

セドリック お祖父様も嬉しいでせう。そしてね、チックの兄さんのベ
ンがね、行方が知れ無くなつた子どもを捜しに、一所に來たん
ですつて、チック、お前能くお話し！

チック 私の兄貴のベンが、カリフォルニヤへ行つてね、大さうお金
子を儲けたんです。それに就いて、行方不明になつた、小僧の
事が氣になつてね、今度は是非それを捜し出してエつて言ふ譯
なんです。それでもつて様子を調べると、小僧はね、兄貴の女房
だつたミンナに連れられて、英吉利へ行つてゐるつて云ふぢやあり
ませんか。そんなら追かけるつてんで、直ぐロンドンへ馳けつ
けて、色々探索して見た處が、ミンナはね、何とか言ふ華族と一
所になつて、何處へか行つてしまつたんでしやう。

セドリツク 華族ど？

ハビシヤム 華族ど！

ヂツク え、然うです。此處まで彼奴を捜し出すに就いちや、随分金子をつかひましたせ。其の小僧は一寸可愛い奴でした。小僧はベンの子に違ひねエんだから、何うしたつてベンのものでさ。ア、然うでしやう。どころが、それから何處へ行たらうつて、段々探索して見ると、小僧は、やつぱりミンナに連れられて、今度ア、伊太利へ行つたつてんです。伊太利だつて何處だつて、ベンは出かける積りだつたんですが、ね、能くく調べて見ると、その小僧を連れたまゝ、ミンナは其の一所に行つた華族ど、どう夫婦に成つたてエ事が分つたんです。そんなんぢやア、追

かけていッたつて、面倒が起るに違エねエツてんで、到頭あきらめツちまひました。金子はまるツきし使ひ損でさア。

ハビシヤム それは何うもお氣の毒な事ぢや。で、其の女の名は何とか言ひましたな？

ヂツク ミンナてんです。一寸好い女でしたツけ。黒い眼の、(ホッアスに向いて)旦那ア知つてまさアね、頭髪の黒い。母親は伊太利人だつて事でしたよ。

ハビシヤム ふうむ、そしてミンナといふ名？(ヂツクの方へ寄つて)前にもそんな風の名を聞いたやうに思ふ。兄さんは、その女の事について、外に何も聞かなかつたらうか？

ヂツク まあ、夫れだけらしいんです。其の女は、多分英吉利中に居

るだらうツて、見當丈はついてるんですが、今何處に居るてエ
事は解りません。併し其の後、その夫婦に成つたツてエ華族が、
何でも死んぢまつたてエ事ですがね……。
ハビシヤムは、ア、すると、其の女は華族の肩書のついた寡婦ぢや
な。

侯爵ハビシヤム！

ハビシヤム 御前、何うも奇妙な話で御座ります。併し、何にも新らし
い話でも御座りません。實際若い亞米利加の婦人が、英國の華
族と結婚することは、無い例でも御座りませんから。(ホツプス
に向つて) 貴方は、其若い女を知つておいでかね？

ホツプス いや、私は成るべく知りたかア無かつたんですが聞きま

すと、何でも仕方の無い女だと言ふ事でしたよ。

セドリツク、ホツプスミヂツクに向つて

セドリツク 僕、もう侯爵になれ無くなつたつて事聞いて、お前達喫
驚したらうね。

ホツプス 喫驚したの何のつて！飛んでもねエ事になつちやつ
たと思つた。

ヂツク、セドリツクに、

ヂツク 彌々然うと定つちまつたのかね？

ホツプス えッ、定まつてしまつた？私は然う思ふんだ。何でも坊
ちやんが亞米利加人だから、英吉利の華族めらが仕組やがつ
て、坊ちやんの権利を奪らうとして居るのに違えぬエ彼の獨

立の戦争以來、私らの國に怨があるもんだから何ぞと云ふと
根にもつて、坊ちやんにまで意趣返しをするんだらうせ。私の
眼には英吉利ぢやア、政府の者まで同腹に成つて、坊ちやんを
苛めるとしか思はれぬエ。

セドリツク 爺や、然うぢや無いんだよ。只何所かの女の人が、そんな
事を云ひ出したんだよ。

ホツプス 女？女なんかの言ふ事が、あてに成つてたまるもんか。
私は女なんか對手にやアしねエ。お前の爲めに加勢に來たん
だ。私は、お前のお祖父様に、一寸話のしてエ事がある。お祖父様
に然う言つてくれ！

セドリツク お祖父様、ホツプスぢいやが、貴方にお話しがあります

ツて（と、後の母の方へ寄る。）

侯爵 ホツプスさん！

ホツプス はい、はい。

侯爵 何う言ふ話かの？

ホツプス、セドリツクの方を向いて、拇指を急に動かしながら、

ホツプス 私は、彼の子のお父さまを能く知つて居ります。

侯爵 うむ！

ホツプス はい、私どもは極く懇意な間柄でした。私の店のお得意
でがして、始終種々の物をお家へ入れとりました。

侯爵 定めて厄介になつた事ぢやらう。

ホツプス 彼の子が生れた時にも、私にやア一番に知らしてくれ

ました。旦那は私店へ馳つけてらしつてね、ホッブス男兒だつたつて仰有るんです。私は、そいつを聞いた時は、自分の子が産れたやうな氣がして、何だか嬉しくつてたまらないもんです。から、近所の子どもに茶を出して、菓子子を御馳走してやつた位のもんでがす。

侯爵 然うぢやつたかのう。

ホッブス それから、もう一度斯ういふ施與をしてやりました。それは、彼の子のお父さんが死んだ時でした。がね、私は旦那が死んだ時に、彼の子も可哀さうに、これからは乃公が親になつた氣で、出来るだけ世話アしてやらなけりや成らねエツて、獨語を言つた位で。だからお前さん、私はもう彼の子の爲めなら店

を譲つちまつてもいいんです。

侯爵 彼の子が萬屋を相續する譯ぢやな？

ホッブス 元氣よく勇み、

ホッブス 彼の子の名を、大きく戸へ書くんでがす。彼の子も肩身が廣くなりまさア。立派でがさア。

侯爵 いや、それは辱い。乃公も彼の子が肩身の廣くなるやうにしたいと思つて居るが、まだ少し審べがなア……。

ホッブス 私も實は能く調べたいと思つて來ました。私の知つてる先々へも、よく聞いて見る積りでがすが、私は、てんから華族なんぞア氣にくは無エんでね。

侯爵 うむ、華族が嫌ひか？

ホツプス いや、何、その貴方とは初めてお目にかゝつたやうな事
で……何、お目にかゝつて見りやア、別にその……。

侯爵 それは難有い。

ホツプス 私の方からも何うぞまア宜しくお頼み申します私
は何うも其の素朴のぶつきらぼうな人間でがして、お氣にさ
りもしましたやうが、これが性分なんでがすから、まア、そこは御
見のがしを願ひますよ。

侯爵 いや別に氣には止めんが……。

ホツプス 氣に止めエつて？ だが私は、その御總領の令夫人だつ
て云ふ女が、何うも氣に食はねエね、(ハビシヤムはザックを手摺き
して、兩人にて話をする。)

侯爵 所で貴公の考案は？

ホツプス 椅子から身を起し、手帳を出して、示し乍ら、

ホツプス 一つ辯護士をよこして貰ひたいんですが、こんな事に
費用を惜んぢや居られねエ。貴方は何れだけ辯護料をお拂ひ
なさる氣だか知らねエが、私は私の貯といた金子を、皆な使つ
たつて惜しかアありませんや、私は此處に居るんですが、此の
手紙にもやんと書いてあります。(更に老侯に手帳を見せる。) 何卒
直ぐに頼みますよ。

エロル夫人 進み出で、ホツプスの手を取て、

エロル夫人 あゝ、ホツプスさん、何うもまア御親切に！

ホツプス 額を拭いて、

ホツプス 何う致しまして、奥様彼の子は何時でも私が引請けま
すから、大船に乗つた氣で居て下せエ！今日のお祝ひに何で
もあげまさア。

セドリツク どうも難有う！でもね、金子なんぞ貰はなくつても、僕
華族で無くなつたら、自分でもつて働いて、金子を儲けるから
いゝよ。

侯爵や、ホツプスさん、其處まで心配してもらはんでも可い。併し
志は何とも辱い。然し、貴公は、その事を言ふためばかりに、わざ
と英吉利へ御座つたのか？

ホツプス まアそんなもんでがす。

侯爵（傍白）能く斯ういふ親切な人があつたものぢや、不思議な人

物ぢや、少々變つとるが。（セドリツク、ザツクの方へ行く。老侯聲を高く
して。）いや、實に難有い。貴公はなかく立派な人物ぢや。フォン
トルロイは、今日の誕生日に、貴公のやうな人物に會うて、定
めし非常に喜んごるぢやらう。まア、一つ彼の子と一所に、庭の
方へも行つて見てもらはう。天幕の中には、何か趣向もある筈
ぢや。まア、行つて見て下さい！

エロル夫人 然やうで御座いますねエ。ぢや私も御一所に参りまし
やう。御免を蒙ります、御前様。

侯爵、エロル夫人の方へ歩み寄つて、

侯爵 然し歸る前には、もう一度來て貰ひたい。

エロル夫人 畏まりました。さア、セドリツク、行つて見まじやう。

セドリツク おいで、ヂック行つて見やう、ホツプスぢいやも！ 母様

さア行きましやう。(ホツプス、セドリツク、ヂック、エロル 夫人退場)

侯爵 さア、ハビシヤム、それから彼の話は何うした？

ハビシヤム 御前、先程申し上げました通り、証明書は萬事合法にできて居ります。あれにはもはや何らの疑ひをも挿む餘地が御座りません。それに就いて彼是辯論して居りましたのは甚だ愚な事であつたと存じます。が、併し甚だ疑しい點が御座ります。彼の子どもが、第一彼の女の言ふ年齢よりは、年齢を老つて居るやうで御座ります。それに、子供の生れた年月を問ひました時にも、彼の女は口を辻らしました。尤も直ぐに其の場は繕ひましたが、慥に怪しい處が御座りました。彼の女は、ひどく狼

狽しまして御座ります。子どもの事が、實際變で御座ります。また特に……

侯爵 特に何ういふ事が？

ハビシヤム 結婚證明書の名は、マリアナと御座りますが、過日は能くミンナといふ名を用ゐたと考へます。ミンナ、何うも符合して居る處があるやうに存じます。

侯爵 然うか、能く調べて見い！ うむ。もう一度能く訊せ！ 今日、彼の女が此處へ來ると言つたな？

ミンナ 窓寄りの方から登場。

ミンナ はい、參ると申しましたよ。はい、もう此處に參つて居ります。今日は！

侯爵 怪しからん、何だつてそんな所から入つて来るのぢや。

ミンナ はい、私は入口の處で、ぼんやり待つて居るのは嫌ひで御座いますからね。そして又お取次の方も御面倒だらうと存じまして、此の方が双方の勝手で御座いますわ。オホ、。

侯爵 怪しからん事ぢや、椅子に腰をおろす。

ミンナ、笑つて、

ミンナ 今日日はフォントルロイの誕生日を祝つて居有るのでしやう、私は自分の誕生日を、何んなにして祝つて居てくれるか、夫を見せてやり度いと存じて、フォントルロイを連れて参りました。

侯爵 黙れ、言ふな！

ハビシヤム まづ御前、それなら夫れで棄て、お置きに成つては如何で御座ります。斯やうな事で議論を致して居りましては、一向事件が涉りませぬ。

ミンナ 然うですとも、ちつとも涉りませんからね、早くかたづけ、て貰ひ度いもんですこと！理窟も何も要つたもんですか、私がフォントルロイの母親で、私の子がフォントルロイなのは、もう定まり切つた事ぢやありませんか。

ハビシヤム、ミンナに向ひ、

ハビシヤム まア、お掛けなさい。少々お尋ねしたい事があります。お返事を願ひ度いので……。

ミンナ、椅子へ身を投げて、

ミンナ まア、貴様ン所には、よく何時も尋ねたい事ばかりあるんですねエ、でも尤もそれがお職掌柄ですからねエ。

ハビシヤム、ミンナに向ひて腰をかけ、テーブルの上うへに紙かみを延ばす。

ハビシヤム 此の問題について、最も貴女の地位を重おもからしめたものは、即ちこの結婚證明書であります。

ミンナ 仰有るまでも無い事です。

ハビシヤム で、同時に、これに關して、他の質疑が起つたのであります。

ミンナ 何でも無い事でしやう。

ハビシヤム 何でも無い事？何でも無い事といふ言葉は、亞米利加の婦人が能く云ふ言葉ですが、貴女は、亞米利加にお居でにな

つたことでもありませんか。

ミンナ 少し狼狽して、

ミンナ いゝえ。

ハビシヤム では、前のフォントルローイ様がお用ゐになつたので、つひ口癖が移つたのですな。

ミンナ ええ、まア然うです。つひ、彼の人にかぶれちやつたのですよ。で、お尋ねなさいたいといふのは、何の事ですか、伺はうぢやありませんか。

ハビシヤム お尋ね致したいといふのは、吾々が一個の新事實を發見したからです。其の新事實といふのは、貴女が前のフォントルローイ様の奥方であつたとすれば、無論同棲なされたに相

違ありませんが……。(一)寸首を傾けて、然るに其の婦人は、貴女の結婚證明書に記してある、即ちマリアナと云ふ名とは、少々變つて居る事です。

ミンナはハビシヤムの顔を見て、笑ひ出しながら、

ミンナ 私に、それを知つて居るか、と仰有るのでしやう？

ハビシヤム 先づ然やうな譯であります。

ミンナ、苦笑して、

ミンナ 申しましたやうか。それはミンナといふ女です。併し、お氣の毒さまですが、其のミンナといふのは、誰でも無い私の事で、私は平常ミンナと言つて居たのですよ。

ハビシヤム では、マリアナと言ふのは？

ミンナ それは、母親がつけてくれた名なんです。でも、それは幼名で、少し大きくなつてからは、ミンナになつてしまつたのです。私の母親といふのは、伊太利人で御座いました。侯爵(傍白)うむ、チックの話した女の母親も、たしか伊太利人ぢやつた筈ぢや。

ハビシヤム それでは、其のミンナといふ名で送られた、前フォントルローイ様のお手紙でもお持ちでしやうか。

ミンナ、得意の體で、

ミンナ え、え、幾らでも何んな疑ひ深い人が出て來たつて、慥にフォントルローイの書いた者に違ひ無いと思ふ手紙を何通も持つて居るんです。今丁度、ミンナといふ名宛で來たのも、

丁度一通持つて居ます。今日實はね、古い手紙を検べて居ましてね、都合に依つたら見せやうと思つて、ちやんと持つて來たんですよ。(ポケットから一通の手紙を取り出し、テーブルの上に置いて圖々しく) さア御覽なさい。これは私の辯護士も見たんだから、幾ら貴方が見たつたつて大丈夫さ。

ハビシヤム、ミンナの顔を見ながら、手紙を取つて檢める。

ハビシヤム 然やう、如何にも、是は慥に前フオントルローイ様のお筆であります。

ミンナ 何うです！ 能く氣をつけて見て下さいよ。

ハビシヤム 成るほど、ミンナ殿とありますな。成るほど……小生は今日馬鹿々々しき喜劇を演ずるとと相成り申し候。小生はド

リンコートの前固蒙昧なる耄碌老爺より……」

ミンナ、老侯の方にうなづいて、

ミンナ 殿様の事を言つてるのだと思つてます。

ハビシヤム、續いて讀む。

ハビシヤム「手紙が來て居ずやと存じ、リツチモンドにて遊樂せし後、旅館に歸り候處、果して一通の來狀を發見致し候。併し、其の手紙は陳々腐々たるものにて、小生の耳には疣のできたる事を言ひたるものに過ぎず候。何とて彼の老ぼれは、斯かる愚なる事のみ申し居候事にや……」

侯爵慥に乃公の息子の書き方ぢや。

ハビシヤム「耄碌老爺は立腹の餘り、いよ／＼小生を憎み候へば、何

を仕向け候やも知れず、斯くては吾々の大邪魔に候へば、速かに巴里へ出奔致さんと存じ候。昨日のおん身は誠にあでやかに眺められ候が、併し愚なるブラックポーンと彼のやうにふざけ廻るにも及ぶまじき事と存じ候。彼れは、唯だ彼れの何れの婦人に對しても爲す如き、一冷笑を浮べるに過ぎずと存じ候。おん身最早我が妻たる事、即ちフォントルローイ夫人たることを記憶ありたく候。われらは明日巴里へ出立致すべく候。おん身の愛する夫ベビスより、尙ブラックポーン、今日尋ね來り候ども、お會ひなさるまじく候。……。

ミンナ 如何です！

ハビシヤム いや、能く解りました。緩く、いや實に何うも……。

ミンナ それを御覽になつて、貴方は何うお考へになりますか？

ハビシヤム 此の手紙の日附は、間違ひが無いのでしやうな？

ミンナ 然うですとも！それは慥に六月の月末に書いたのです。

ハビシヤム、手紙を見て、

ハビシヤム 六月廿日は、ア、では此の日ベビス様とお兩人で、リッチモンドへおいでになつたに相違無いのですな。

ミンナ 然うですとも！何と言つたつて、こればかりは胡魔化す事ア出来ませんよ。此處にちやんと手紙があります。此處にちやんと日附があります。さア、何うです。これでもまだいけないんですか。まだ此の外に私の生きた證人をお目にかけますやうか。それは、ブラックポーン大尉です。其の時一所に馬車で行

つたんです。私が丁度馭者をして、ほんとに面白かつたよ。(笑ふ)
ハビシヤムは、ア、貴方が自分で手綱を執つて、馬車を飛ばしたと
仰有るのですな？

ミンナ それが偽だと思ふなら、ブラックボーンさんに聞いて御
覧なさい。ベビスさんに教はつたんです。あの方は馬車をあつ
かふより外には、何も能が無かつたんですもの。

ハビシヤムは、ア、で、貴女は其の年の六月の二十日に、馬車を飛ば
してリッチモンドへ行つたに相違無いと仰有るのですな。何
うも不思議な事もあるものぢや。

ミンナ 何がそんなに不思議ですッて？ 其處に歴とした手紙が
あります。其處に歴とした日附があります。其處に愛する夫べ

ビスよりと書いた歴とした證據があります。何處に何いふ不
思議があります？ さア、何が其様に不思議なのです？
ハビシヤム 併し、貴女が子供を産んだと言ふのは、丁度此の年の此
の月の、而も此の日ぢや無いですか？

ミンナ、急に慌て、

ミンナ え、間違つてました。間違つてました。つひうつかり間違
つちまつたんです。其の日附は、違つてたんです。彼の人ツたら
輕忽しいもんだから、能くそんな間違ひをするのですよ。ほん
とに間違ひ無く書るのは、自分の名ぐらゐるなものでした。忌々
しい！(自棄を起して老候に) 火吹達磨ぢやあるまいし、何だつて
そんなにプツプツしてるんですね。御人體が下りますよ。へい、

何うせ私の言つた事は、皆間違ひで御座いますとも。

侯爵 其の通りぢや、皆嘘ぢや。

ハビシヤム いや、御婦人、悪い事はできんものでナ。な前さんは自分で自分のこしらへた罠に落ちた様なものぢや。

ミンナ 顔色まで變へて、

ミンナ ほんとに忌々しい。

ハビシヤム 決心して、

ハビシヤム お前さんの云ふ事は嘘ぢや。初から矛盾した事許りぢや。私が度々注意をしたのに……とても駄目ぢやから諦らめなさいと、あれほど忠告をしてあげたのに！

ミンナ エイ、今に見て居るが可い！（と、ます／＼棄擲になる。）

ハビシヤム は、それは此方で言ふ事ぢや。もう十五分たゝんうちに、反對證人が現れて来て、お前の方の耳の障子を張りなほさんければならんやうになるぢやらう。

ミンナ 何？ 反對證人？ 何うとも勝手にするが可いや！

侯爵 今朝此處へ亞米利加から人が來たのぢや。うむ、何とかいふ子供ぢやつたな、ハビシヤム？

ハビシヤム リチャード、チプトンと申しました。

ミンナ なにチツク！（と、申腰に成る。）

侯爵 彼れは兄と一所に來たのぢや。うむ、兄の名は何と言ふたのう、ハビシヤム？

ハビシヤム ベンジヤミン、チプトンで御座ります。

ミンナ いゝ加減な事を!

侯爵 妙な事だな、ベンジャミンは若い婦人を探索しに来たのぢや。其の女の名は……何と言つたかの、ハビシヤム?

ハビシヤム たしかミンナ、チプトンと申すので御座ります。

侯爵 ミンナ、チプトンか。その婦人は、ベンジャミンの女房ぢやつた。夫婦の間に子どもが一人あつた處が此のミンナ、チプトンは、其の子供を連れて、この英國へ出奔して来たのぢや。その内に、若い華族と結婚して、また何處へか出奔してしまつたのぢや。

ハビシヤム 重婚! 重罪を犯したな! (ミカを入れる。)

ミンナ もう澤山! 何とでも言ふが可いさ。いゝよ、もう分つてる

よ! (ごますく 不貞腐る。)

セドリツク 登場。

セドリツク お祖父様、小さい子……あの他のフロントルローイね。知つてるでしやう。彼の子、彼處に来てますよ。僕がお入いりなさい。いつて言つても、何うしても入つて來ないの。

ミンナ 下司の調子で、

ミンナ 彼奴は何をして居やがるんだらう?

セドリツク 僕、お庭で見つけたの、村の人たちは、其の子を見て居るばかりで、誰れも遊んでやりやアしないんですよ。その内にね、一人の子がね、其子を泣かしちやつたの。其の子はわア〜泣いてましたから、それで僕が側へ行つて、好いものあげるから

來有いらつしやいッて言いつたらね、直すぐ又また黙だまつちまつたんです。でもね、何どうしても中なかへ入はいつて來こないの、お祖父ぢいさん様が恐こはいッて……。

ミンナ 前まへのフォントルロイの通とほりに、お祖父ぢいさん様が恐こはいのさ。

セドリツク 其そのの子こは何どこ處こで生うまれたか。お祖父ぢいさん様知しつて居ゐ有あつて？
其そのの子こにね、君きみ何どこ處こで生うまれたのッて聞きいたんです。そしたら、や
つぱり紐ひも育よくだつて！それから、父ちち様はッて聞きいたら、カリフ
ルニヤに居ゐるんですつて。

ミンナ 嘘うそばかり言いつてるよ。あの子こは、能よくそんな事ことまでが嘘うそつ
きの、胡ご魔ま化くわしやの前まへのフォントルロイに似にて居ゐるやがるん
だ（セドリツクを打うつ真ま似ねをして）。お前まへもほんとに嘘うそつきだよ。彼の
子こがそんな事ことを言いふもんかい。

セドリツク、少すこし後あと退ひきりして、あごけ無なく老らう侯こう爵しやくを眺ながめて、

セドリツク 彼あの人は何どうかしたんですね？

エロル夫人ふじん、ホツプス、ザツク登どう場ぢやう。

ザツク、ミンナを見みて、一寸ちよつと立ちどまり、疑じつ乎と見み詰つめて、

ザツク 何どうしても、ミンナの奴やつだ！

侯爵きやく、ザツク、貴き様さま此この女おんなを知しつとるか？

ザツク え、知しつてますとも！旦那だんな此こ奴やつは、こんなお座ざ敷しきへなん
か來こられる人間にんげんぢや無ないんです。何なにが令お夫人ふじんなもんですか。華くわ
族ぞくの令お夫人ふじんになんかなれる奴やつぢやア無ないんです。飛とんでも無な
い。彼あ奴やつはミンナです。

ハビシヤム 確たしかにさうか。

ヂツク 確たしかにさうです。これがミンナでなくつて何なにうするもんで
すか。

ミンナ やい、此こン畜生ちくじやう！お前まへとお前まへの兄貴あにきの馬鹿野郎ばかやろうは、能よく人ひと
の邪魔じまばかりしやがる。そんな事ことばかりしてると、ろくな事ことは
無ないぞ！（ヂツクの方ほうへ走り寄よる。）

セドリツク お前まへ早くお逃にげよ〜！

ヂツク なアに可いいんですよ、可いいんですよ。彼奴あいつに何なにができるも
んですか！（ミンナに）やい、ミンナ！ベンは、ドリコンコートの殿どの
様さまのお世話せわになつてるんだぞ。もういくらジタバタしたつて
駄目だめだよ、ベンはお前まへに會あはうと思おもつて、どうから此處こゝへ來き
てるんだぞ！

ハビシヤム 叩たたき拂はらひを食くはん中に、早はやく此處こゝを出でて行ゆくが可い悪わる
い事ことは云いはんから。

侯爵こうしやく膝ひざにセドリツクを引ひき寄よせて、

侯爵こうしやく もう、一言ひとことあるまい。若もししまた言いふ事ことがあるなら、辯護士べんごしでも
頼たのんで來こい！

ミンナ、テーパールの上うへの手紙てがみを、荒あ々あしく掴つかみ取とつて、きれぐに引ひき裂さ
き乍なら、

ミンナ くそ！此畜生ちくじやま、邪魔じまをしやがつて！（ヂツクに）今いまに何なにうする
か見て居ゐるやがれ！（ホツアスに）この禿頭奴はげあたまの！何なんだつて此方こゝを睨にら
んでやがるんだ？（ヒスナリー的に笑わらつて老侯らうこうに）なに私わたしは澤山たくさんさ。
随分ずぶん苛いらめてやつたからね…。ベビスの野郎やろうの言いひぐさぢや無な

いが、没分曉の老碌老爺さん、随分お前さんもまごついたねエ。
私もこれで本望さ！やり損なつたつて、元の奎阿彌だ。(エロル
夫人を指して)此の女だつて、お前さんは憎んで居たんぢや無い
か、私と言ふものが出来たからこそ、此の女が好きになつた
んぢや無いか。それもみんな私のお蔭だ。私に禮を言ふがいゝ
ぢやないか。私は、お前さんの總領に見込まれて、結婚證明書ま
で取交した女だよ。これ程までにしてやりやア、彼の人だつて
不足はあるまいよ。お前さんだつて然うだらうぢや無いか。
侯爵もう、つべこべ言ふには及ばん。早く出て行け！まごゝす
ると投り出すぞ！

エロル夫人 あゝ、もし、ちよつとお待ち下さいませ。そして其の方の

お子さんは？

ミンナ ヘツ、お世話さま！彼奴の父親に引き渡しますよ。それど
もお前さんにあげやうかね。お前さんの腕がありやア、彼奴を
フォントルロイにする事もできやうよ。(ミンナ横着な様子で
退場。)

ザック はゝ、行つちまやがつた！彼んな厄介な奴はありません
よ。又あんな向ふ見ずな奴もありません。(ハビシヤム傍にてト
マスと語る。トーマス外へ行く。エロル夫人老侯互に歩み寄る。)

エロル夫人 御前！此の子はやつぱりフォントルロイで御座いま
した！

侯爵 然うぢや、然うぢや、全くさうぢや、(こゝも満足の體で更にセドリ

ツクに向ひ) フォントルロイー！ 母さんに、城へ移つて下さるか、お
前行つて聞いて見い！

セドリツク、母の首へ腕を投げかけて、

セドリツク 私たちは、いつも一所に居て、いゝんですツてね、何時で
もねエ母様！

エロル夫人 あの、ほんとに、ほんとに私に參れと仰有るので御座い
ますか？

侯爵 うむ、然うちや全く其の方が都合がよかつたのちやがつひ
それに氣がつかなかつたのちや。早速來て貰ひたい！

セドリツク ホツブス爺やヂックは？ お祖父様！

侯爵 うむ、ヂックは、城の近所に住むやうにしてとらさう。

ヂック 難有う御座います。

セドリツク チックも、ホツブスぢいやも、ハビシャムさんも、お祖父様
も母様も、皆一所ね。(樂隊の響聞え、歡呼の聲外に起る。)

侯爵 フォントルロイー、できるだけ大きな聲で、一同に禮を言つた
ら好からう。

セドリツク 甲斐々々しく、中央に立ち姿勢正しく、

セドリツク 諸君何うも難有う！ 僕今日の誕生日が大變嬉しかつ
たから、皆さんも喜んで下さい！ それから……僕侯爵にな
るのが楽しみです。僕初めは何とも思はなかつたんですが、今は
もう嬉しくなつたんです……それから、僕此處も大好きです。
何うも美麗な好い處だと思つてます……それから……僕侯

爵しやくになつたら、お祖父様ぢいさまのやうに好い人ひとになるんです！……
ねエお祖父様ぢいさま！（老侯らうこうに抱きつく。）

幕まく

(256)

小公子(完)

●家庭劇 小公子に就て

中村春雨

有樂座の家庭劇「小公子」の開演は、今の劇界に於ける新現象の一として注目すべきものである、勿論已に家庭劇と標榜してある以上、所謂嚴密の意義に於ける演劇の立脚地から見れば、意味の軽いもので、「小公子」といふ脚本が、人生的乃至藝術的方面から云つて、多く論議を費すに足る丈のものでないのは、斷るまでもないが、併し今の骨董的歌舞伎劇や、見世物式の新派劇などに比べると別に新しい意義を發見する事が出来る。第一に、その劇の形式が緊縮されてゐるのと又對話々々で運

んでゐるといふ點に於て日本在來の新舊劇の徒らにダラダラと長く、又場面をくるく／＼變へて許りゐて對話よりも動作をどのみ覘ふのが演劇の必要條件の如く心得てゐるのに對し、一の反證を示してゐるのである、かゝる三幕二場の對話で行く簡易なる形式が、却て有力なる印象を觀客に與へ得る事を教へてゐるのは、日本の劇界に對する一の有益なるヒントである。

第二に、劇中の人物の性格などいふものが、悉く理想化されて、寧ろ理想の器械人形の如くに現されてはゐるが、而もそれが爲めに作を一貫する中心觀念が或程度まで強く觀客の胸に訴へられて來るといふ點である、謂はゞ「小公子」は近世化され

たる道德劇であるが、彼の新派劇などの性格もよく現れず、さればと云つて觀念も出てゐない、何方附かすの中性劇(?)が、散漫な、不得要領な感を觀客に與へるのよりは、まだしも道德劇にしる、何にしる何か一つ握んで、その一方に深く突込んで行つたものゝ方が、觀客に與へる興味の分量が多いといふ事を示してゐるのである。

第三に、家庭劇といふ題目が、所謂從來の芝居嫌ひなる一部の上中流の家族をもよく誘引して罪の無い、否寧ろ家庭の教訓をも與ふるやうな一夕の清興を得せしむる傍ら、將來日本に興り來るべき新たな意味の演劇の觀客を養成する、一の豫備教育を與ふる機會を作るものである。

余は斯かる意味に於て、今回の家庭劇興行の舉を賛成する者である、併し將來も續行されるのなら、脚本に西洋物許りでなく寧ろ日本物即ち新作といふ方面に重きを置かれん事を希望する。

(東京朝日新聞所載)

明治四十三年六月十四日印刷
 明治四十三年六月十七日發行

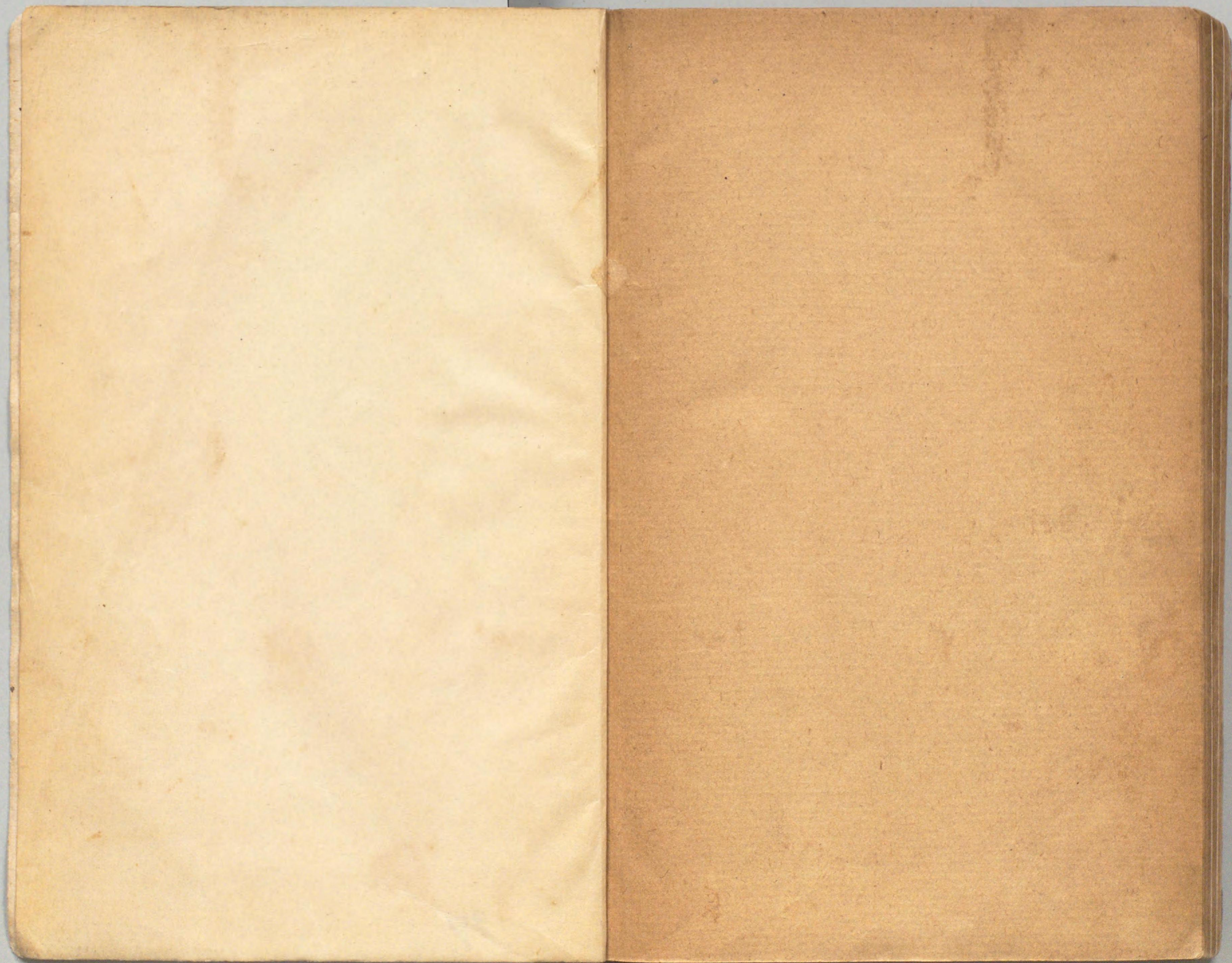
(定價金七拾五錢)

(行與斷無許不)



著者	巖谷季雄
發行者	野村鈴助
發行者	服部國太郎
印刷者	中村政雄
印刷所	報文社
發行所	新橋堂書店
同	服部書店

發賣元 東京市京橋區 新橋堂方 名著刊行會
 出雲町一番地



19

37

98
254

